



2023.4.18

「Talk」 Salone del Mobile.Milano

エウロルーチェ/ ホール 13、アリーナ「Aurore(アウローレ)」 11.00am

フォルマファンタズマ/Formafantasma の設計によるエウロルーチェ/Euroluce の巨大アリーナ「Aurore(アウローレ)」では、この隔年開催見本市の再開を機に、現代の照明シーンで最も輝く人々たちによる、光とサステナビリティに関する豊富なトークプログラムが開催されています。

プロジェクト、デザイン、建築がいかに現在を理解し、未来を想像し、新しい道を開き、解決策を見つけ、直感と想像力を活性化させながら「可能性」をふるいにかけることができるのか、横断的に深く分析する機会となります。昨年の成功を受け、Annalisa Rosso (アンナリーザ・ロッソ) のキュレーションによる豊富なプログラムとともに今年もミラノサローネ主催、「Talks」を開催します。

坂茂氏、田村奈穂氏、Snøhetta(スノヘッタ)の Kjetil Trædal Thorsen 氏(シェティル・トレーダル・トールセン)と Marius Myking 氏(マリウス・マイキング)、Andrea D'Antrassi 氏(アンドレア・ダントラッシ/MAD Architects) が登壇し、それぞれ著名な国際ジャーナリストがモデレーターを務めます:

Yoko Choy 氏 (ヨーコ・チョイ/ Wallpaper*チャイナ・エディター)、Felix Burrichter 氏(フェリックス・ビュリッヒター/建築雑誌「PIN-UP」クリエイティブディレクター)、Anne-France Berthelon 氏(アン・フランス・ベルテロン/フリージャーナリスト)、Amit Gupta 氏(アミット・グプタ/STIR 誌の創業者・編集長) Samta Nadeem 氏(サムタ・ナデーム/STIR 誌 企画ディレクター)

4 つの対話の焦点は、持続可能性と現代デザインにおける人間の中心性、そして最新の技術革新によって私たちの未来の生活をより良くすることができる光の重要性(自然から人工、あらゆる空間や機能のソリューションまで)にあります。異なる国からの登壇者によるデザインとクリエイティブのアプローチが彼らの視点で語られます。

● 4月19日(水)11:00 坂茂氏

「Balancing Architectural Works and Social Contributions」

モデレーター: Yoko Choy 氏 (ヨーコ・チョイ/ Wallpaper*チャイナ・エディター)

2014年プリツカー賞を受賞した日本の建築家、坂茂氏が、Wallpaper*の中国エディター、ヨーコ・チョイ氏との対談でプログラムの幕を開けます。段ボールや竹など、経済的で持続可能な素材の研究と使用を通じて示された彼の社会的・環境的コミットメントは、

デザインにおける光の使用に関する考察も怠りません。建築に応用される木材の可能性、災害救助のための建築技術、未来を見据えた建築などをテーマに「建築作品と社会貢献のバランス」と題した講演を行う予定です。

- 4月20日(木)11:00 田村奈穂氏

「Interconnection」

モデレーター:Felix Burrichter 氏(フェリックス・ビュリッヒター／建築雑誌「PIN-UP」クリエイティブディレクター)

詩的で抽象的、そして革新的な技術を駆使する田村奈穂氏は、SaloneSatellite(サローネサテリテ)でデビューを果たし、第1回 SaloneSatellite Awardを受賞した、国際的にいま最も注目されているデザイナーの一人です。その学際的なアプローチ、エコロジーへの感受性、ものづくりへの関心から、彼女は特に現代を代表する声となっています。“Interconnection”では、アメリカの雑誌『PIN-UP』のクリエイティブ・ディレクターであるフェリックス・ビュリッヒターとの対話を通じて、照明、インスタレーション、サイトスペシフィック・プロジェクトなど、イルミネーションに焦点を当てた研究から、デザインがいかにかコミュニケーションであるか、それがいかにか創造的プロセスを方向づけるか、より良いデザイン、より持続可能な未来への道を照らし出すことを説明します。

- 4月21日(金)11:00 スノヘッタ・スタジオ

「Continuous state of reinvention」

モデレーター:Anne-France Berthelon 氏(アン・フランス・ベルテロン)

近年、ノルウェーの水中レストラン「Under」や香港の集合住宅「The Pavilia Farm」など、驚異的なプロジェクトを実現している Snøhetta(スノヘッタ)スタジオは、30年以上にわたって常に自己改革を続けています。共同設立者の Kjetil Trædal Thorsen 氏(シエテイル・トラーダル・トールセン)とプロダクトデザイン担当ディレクターの Marius Myking 氏(マリウス・マイキング)による講演は、“Continuous state of reinvention”と題して行われます。フリージャーナリストでデザイン評論家、クリエイティブ戦略コンサルタントの Anne-France Berthelon 氏(アン・フランス・ベルテロン)の司会で、既成概念に挑戦し、サステナビリティ、人間関係の促進、知識の共有、文化的体験の名の下にプロジェクトを実現する、ノルウェーの有名スタジオの考え方を探ります。スノヘッタにとって、社会・環境の持続可能性は、イノベーションの必須条件であり、自然光と人工光の両方が、幸福度を高め、カーボンフットプリントを削減することができる、持続可能なデザインに不可欠な要素です。



● 4月22日(土)11:00 MAD アーキテクト

「Be the MAD, be the LIGHT」

モデレーター: Amit Gupta 氏 (アミット・グプタ/STIR 誌の創業者・編集長) Samta Nadeem 氏 (サムタ・ナディーム/STIR 誌 企画ディレクター)

北京、嘉興、ロサンゼルス、ローマにオフィスを構える MAD Architects (MAD アーキテクト) は、設計された空間のユーザーである人間の感情的なニーズに特に焦点を当て、世界で最も活発かつ先駆的な建築スタジオの一つです。アソシエイト・パートナーの アンドレア・ダントラッシと対談するのは、インド出身のアミット・グプタ/STIR の創業者兼編集長、企画ディレクターのサムタ・ナディームです。“Be the MAD, be the LIGHT” では、光合成のプロセスを活性化させる自然界の基本的な要素である光の重要性と、スタジオのデザイン哲学の根幹をなす要素である「感情的な光」が、並行して強調されます。影は不在ではなく関与であり、光は開放ではなく細部であることが語られます。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it